2012 年 1 月 31 日発行

点訳通信

73 号

日本ライトハウス情報文化センター
点字製作係
〒550-0002　大阪市西区江戸堀 1-13-2-8F
TEL 06-6441-1028（点字製作直通）
TEL 06-6441-0015(代表)　FAX 06-6441-0095

2012 年が始まりました。今年は、日本ライトハウスが創立 90 周年を迎えます。当初は、日本の点字が考案されて 30 年ほど経過していましたが、点字図書はまだまだ行き届いていなかった時代。そんなときに、点字出版所を出発点とし、産声を上げたことを考えると、感慨深いものがあります。

その後、多くの点字図書が製作され、今では視覚障害者も自由にいつでも読みたい図書を読める環境になってきました。一方で、点字離れという問題が取りざたされるようになって久しい現実もあります。改めて点字図書のあり方、今後どのような図書作りを目指していけばよいのかを、じっくり考えなければなりません。

堅いことを書きましたが、今年も読者にとって必要な図書、「読みたい」ときに「読める」点字図書を作っていきましょう。　（点字製作係　奥野真里（おくのまり））

【 お知らせ 】

２月１１日（土）建国記念の日　休館

３月　７日（水）ボランティア交流会
（１０：００～１５：００　玉水記念会館にて）

３月２０日（火）春分の日　　休館

(C) WANPUG

目次

◆「教科書点訳連絡会」セミナー報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
◆ 専門点訳コース「漢文コース」が終了・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
◆ 小原二三夫職員「講演会」のご案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
◆「奥付」の書き方と点訳例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

■「なぜ点字教科書は必要なのか」■

2011 年「教科書点訳連絡会」セミナー報告

昨年 11 月 23 日に当センターにおいて、全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会のセミナーが開催されました。豊中市の小学校で学ぶ児童の事例が報告され、それを受けて、筑波技術大学教授・長岡英司氏から、「点字教科書の必要性」についてご講演いただきました。
以下に、当日参加されたボランティアの方からの感想をご紹介します。

「確かに、自分で、正しく学べる」ために

点字製作ボランティア　上山明美（うえやまあけみ）

私は点字教科書の製作に携わって４年目になります。初めて点字教科書のセミナーに参加し、いろんな立場の方のお話を聞くことができました。豊中市の小学校の事例は、入学前からの学校、支援センター、支援員さんとの連携が非常に密で、１年生が順調に学校生活に適応できている良い例だと思いました。一人でも多くの生徒さんがこのような環境で学べることを願います。また、長岡先生は視覚障害を持つ生徒さんが「確かに、自分で、正しく学べる」ために点字教科書が必須と話されましたが、理解できる教科書を製作する点訳者としての責任の重さを感じました。

原本に忠実に作図するとかえって複雑になる場合があるので、いかにわかりやすく図を表現するかに頭を悩ませることが多いです。今回のセミナーでは、盲学校で使用されている教科書や絵本を見せていただいたり、理解しやすくするために図を分割したり、段階的に書くとのお話を伺えました。

より良い点字教科書を製作するために、今後、私たちの点訳した教科書の利用者の声を聴ける機会や他の点訳教科書を目にする機会があればいいと思います。

わかりやすい教科書の点訳を目指し、皆さんにご指導いただきながら経験を積んでいきたいと気持ちを新たにしました。

ひとりひとりの生徒へ適切な支援を

点字製作ボランティア　塚本壽子（つかもとひさこ）

一昨年の秋、はじめて、算数の教科書の点訳に取り組みました。図の点訳（BES）を始めたばかりだった上に、理解しやすく表す難しさもあり、期限もありで、ただ仕上げることに追われた半年間でした。その間、点字教科書はどのように使われているのだろうと思っていました。それで「なぜ点字教科書が必要なのか」というテーマに

惹かれて参加しました。

教科書の問題だけではないことを教えられました。教科書を用いた学習だけではなく、学校生活そのものへの指導・支援が不可欠で力をそそがれていることにも改めて気づかされました。盲学校では、線をたどるところから、丁寧に触察の練習がなされているのに比べて、普通校に入学して、他の生徒たちと同じ内容の教科書に向かっているとすれば、理解されているんだろうかという疑問がわくと同時に、指導者・支援者の役割の重さを感じました。点字教科書の場合、それを使用する人はわかっており現場からの情報やフィードバックがあれば、よりその人に適切なものができるのではないかと思いますが、実際にはどのようになっているのでしょうか？　自分の訳した教科書が本当に現場で役に立っているのだろうか？　もっと改良すべきところがあったのではないか？　怖いけれど知りたいと思います。

点字教科書の有用性が述べられ、教科書の点訳には高い技能が求められるといわれ、カツを入れられた気がします。今度は今春提出の理科をすることになり、重圧で縮みそうですが、正確でわかりやすいものを目指して力をつくしたいと思っています。

■専門点訳講習会「漢文コース」が終了■

11月1日～12月6日の毎週火曜日、全6回にわたって専門点訳講習会「漢文コース」が行われました。今回は、音訳ボランティアの佐久間かず子氏、点訳ボランティアの澤田祐子氏、小原二三夫職員が講師を務めました。毎回2時間があっというまに過ぎてしまい、充実したプログラムとなりました。以下は、今回の講習会を受講した方の感想です。

「漢文コース」を受講して

点字製作ボランティア　山本普実雄（やまもと ふみお）

最初の4回は、基礎から始まり、読み下しの講義で、後の2回は、点訳の仕方でした。私にとって漢文は、高校以来です。

まず基礎は、わかりやすい資料をもとに一つ一つ丁寧に説明して頂き、楽しく私なりに興味をもって勉強させていただきました。ゆっくりと教えていただいたとおり「レ点」「一・二点」「上下点」等と順番に読んでいくと、私にも読める文章もあります。読めると楽しくなります。「大阪市史」抜粋の資料は、ふりがなもなく難しくて読めません。練習のため順番に読み下していくのですが、皆さんスムーズに読まれるのには感心しました。後の2回は、符号などを使っての実際の点訳について教えてい

ただきました。読み下し文の模範例などもいただきました。

終えてみると短い６日間でした。漢文符号を使って点訳したことはありませんが、読み下さなくてはならない文章も出てきます。今まではベテランの方に頼りきりでしたが、これを機に少しは役立たせたいと思います。講師の方にはご多忙中、わかりやすい資料を準備していただき、有り難うございました。

● 点から始まり、線、面へとどこまでも広がる私のライフワーク

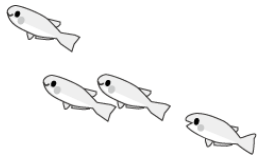
（小原二三夫（おばらふみお）職員「講演会」のご案内 ）

これまで、日本ライトハウスで数々の点字図書・教科書の校正をはじめ、「コンサイス英和辞典」（点字全 100 巻）の編集・出版にも携わってきた小原二三夫職員の講演会を開催します。利用者と、ボランティアの皆さんと、職員とともにさまざまな難問関門を経験し乗り越えてきた小原職員。点字への熱い思いと“触る”ことへのこだわりを２時間たっぷり語ってもらいます。

日時：2012 年３月 31 日（土）13:00～15:00
場所：当センター会議室１・２

（ご希望の方は、点字製作係の職員までお申し込みください。会場の都合上、定員に達した場合は締め切らせていただきます。）

■「奥付」の書き方と点訳例■



(C)WANPUG

奥付は本によって表記や内容がまったく異なります。どの項目をどのように点訳すべきか、当センターでの奥付点訳の原則と点訳例をご紹介します。

① 点訳する奥付の項目は原則として次のとおりです。
「書名」「著者」「発行所」「発行日」「定価」「ＩＳＢＮ」の順。
点訳書に関する情報である「製作」「点訳年月」「点訳者」。
書き方は基本的には原本どおりですが、まぎらわしい場合は職員にご確認ください。

②「発行者」「製本・印刷」「装丁」「デザイン」などの項目は省略します。
また「落丁・乱丁本はお取替えいたします」の文や日本複写権センターの内容に関する情報など、墨字原本に関する内容も省略します。

③ シリーズになっている書籍は、シリーズ名を「書名」のところにカッコがきで点訳します。ただし、各出版社が便宜上記載している仮名と数字で表された「図書番号」（点訳例の例２の場合：た１９−５）は省略します。
（ＩＳＢＮとは異なるので注意してください。）

④「著者」以外に「監修者」「編者」等がある場合は、そのとおり点訳します。また、翻訳本の場合は「訳者」も点訳します。

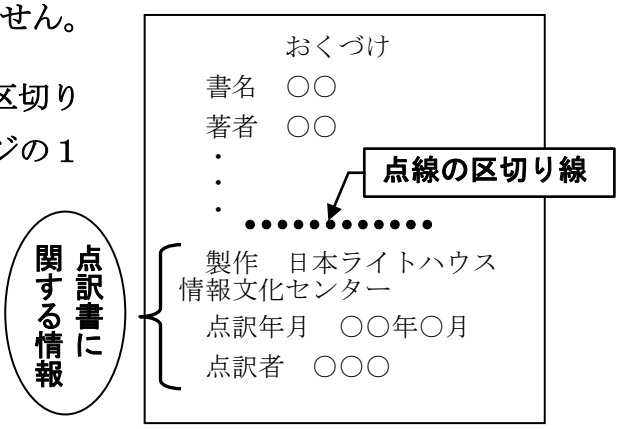
⑤ 発行所の「ＵＲＬ」、「メールアドレス」が記載されていたら点訳します。

⑥ 発行日の「刷」は「すり（ずり）」と点訳します。
また、複数刷の場合は、「初版第１刷の発行日」と、「最新（その原本）の発行日」を点訳します。

⑦「定価」が奥付に記載されていない場合は、表紙カバーなどから引用します。

⑧ 奥付は奇数ページから書き始めます（２２行設定の場合はページ変えになります）。また、奥付にはページは入れません。

⑨ 点訳書に関する情報との間には点線の区切り線を入れます。ただし、点線が裏ページの１行目にきた場合は省略します。



●点訳例

例１　**『ウィキリークス』**　シリーズ名の入った③の例

例２　**『小夜しぐれ』**　シリーズ名の入った③、ＵＲＬの書き方⑤の例

例３　**『生きものたちの奇妙な生活』**　翻訳本で④の例

例４　**『コンピュータ用語事典』**　複数刷の⑥の例、および発行日が元号になっている例

例５　**『地図で見る日本の歴史』**　監修者が記載されている④の例、ＵＲＬの書き方⑤の例、複数刷の発行日の書き方⑥の例

例６　**『男の一日一作法』**　メールアドレスの入った⑤の例

例７　**『男も女も更年期から始めよう』**　発行所の連絡先が記載されていない場合の例、ＦＡＸ番号が記載されている例

例８　**『巻き込む力』**　墨字原本に関する情報を省略した②の例。（２２行設定の例）

例１

（点訳例はｐ10）

アスキー新書　180

ウィキリークス

2011年2月10日　初版発行

盲人情報文化センター
No. 6.18
年 月 日

著　者　蜷川真夫・石川幸憲
発行者　髙野 潔
発行所　株式会社アスキー・メディアワークス
〒160-8326　東京都新宿区西新宿 4-34-7
電話（編集）0570-064008
発売元　株式会社角川グループパブリッシング
〒102-8177　東京都千代田区富士見 2-13-3
電話（営業）03-3238-8605（ダイヤルイン）
装　丁　緒方修一
印刷・製本　凸版印刷株式会社

ISBN978-4-04-870435-9　C1230
©2011 Masao Ninagawa / Yukinori Ishikawa
©2011 ASCII MEDIA WORKS　Printed in Japan

本書は、法令に定めのある場合を除き、複製・複写することはできません。
落丁・乱丁本はお取り替えいたします。購入された書店名を明記して、
株式会社アスキー・メディアワークス生産管理部あてにお送りください。
送料小社負担にてお取り替えいたします。
但し、古書店で本書を購入されている場合はお取り替えできません。
定価はカバーに表示してあります。

例２

（点訳例はｐ12）

時代小説文庫
た 19-5

小夜しぐれ　みをつくし料理帖

著者　髙田 郁
2011年3月18日第一刷発行

発行者　角川春樹

発行所　株式会社角川春樹事務所
〒102-0074 東京都千代田区九段南2-1-30 イタリア文化会館

電話　03(3263)5247[編集]　03(3263)5881[営業]

印刷・製本　中央精版印刷株式会社

フォーマット・デザイン＆シンボルマーク　芦澤泰偉

本書の無断複写・複製・転載を禁じます。定価はカバーに表示してあります。落丁・乱丁はお取り替えいたします。
ISBN978-4-7584-3528-4 C0193
©2011 Kaoru Takada Printed in Japan
http://www.kadokawaharuki.co.jp/[営業]
fanmail@kadokawaharuki.co.jp[編集]　ご意見・ご感想をお寄せください。

例３

（点訳例はｐ14）

生きものたちの奇妙な生活

驚きの自然誌

2009年4月30日　第1刷印刷
2009年5月 7日　第1刷発行

著者――マーティ・クランプ
本文イラスト――アラン・クランプ
訳者――長野敬＋赤松眞紀

発行人――清水一人
発行所――青土社
東京都千代田区神田神保町1－29　市瀬ビル　〒101-0051
電話　03-3291-9831（編集）　03-3294-7829（営業）
振替　00190-7-192955
印刷所――ディグ（本文）
方英社（カバー・表紙・扉）
製本所――小泉製本

装丁――高麗隆彦

ISBN978-4-7917-6473-0　Printed in Japan

例４

（点訳例は
ｐ16）

コンピュータ用語事典（改訂２版）　© 伊東正安 1992

昭和58年 6月25日　第1版第1刷発行
平成 4年 6月25日　改訂2版第1刷発行
平成 7年 4月10日　改訂2版第4刷発行

編　者　伊　東　正　安

発行者　株式会社　オ　ー　ム　社
代表者　佐　藤　政　次

〔検印省略〕

発行所　株式会社　オ　ー　ム　社
郵便番号　101
東京都千代田区神田錦町3－1
振　替　00160－8－20018
電　話　03(3233)0641(代表)

Printed in Japan

印刷　エヌ・ピー・エス　製本　司巧社
落丁・乱丁本はお取替えいたします

ISBN 4－274－07710－1

R 〈日本複写権センター委託出版物・特別扱い〉

例５（点訳例はｐ18）

監修　竹内 誠（たけうち・まこと）
立正大学文学部史学科教授、東京学芸大学名誉教授。江戸東京博物館館長。
日本近世史専攻。著書に『元禄人間模様』（角川選書）『江戸の盛り場・考』
（教育出版）『大系日本の歴史10　江戸と大坂』（小学館）、編著に
『文化の大衆化』（中央公論社）『江戸名所図屏風の世界』（岩波書店）
『教養の日本史』（東京大学出版会）などがある。

イラスト　秋山一男
川村克彦
川村舞固
滝本央固
滝本隆行
冬野いちこ
地図製作　OCTANT
装丁・AD　林　四郎

編集　住友和子編集室
住友和子
村松寿満子
須知真知子
編集協力　須江由記子
小平　彩
松尾律子
企画　画工舎

製作・発行　株式会社フレーベル館

地図でみる日本の歴史５
安土桃山・江戸時代【前期】

2000年12月　初版　第1刷発行
2008年 4月　初版　第4刷発行
NDC 210/72P/31×22cm

発行者　北林　衛
発行所　株式会社　フレーベル館
東京都文京区本駒込6-14-9
郵便番号　113-8611
電話　営業　03-5395-6613
編集　03-5395-6605

振替　00190-2-19640
印刷所　凸版印刷株式会社

© Froebel-kan.Gakosya 2000
Published by Froebel-kan CO.,LTD.Tokyo
Printed in Japan

ISBN978-4-577-02022-7

フレーベル館ホームページ　http://www.froebel-kan.co.jp

例６
（点訳例はｐ20）

男の一日一作法（おとこ いちにちいちさほう）

2011年11月20日初版１刷発行

著　者 ── 小笠原敬承斎
発行者 ── 丸山弘順
装　幀 ── アラン・チャン
印刷所 ── 堀内印刷
製本所 ── 榎本製本
発行所 ── 株式会社光文社
東京都文京区音羽1-16-6（〒112-8011）
http://www.kobunsha.com/
電　話 ── 編集部03（5395）8289　書籍販売部03（5395）8113
業務部03（5395）8125
メール ── sinsyo@kobunsha.com

Ⓡ本書の全部または一部を無断で複写複製（コピー）することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター（03-3401-2382）にご連絡ください。また、本書の電子化は私的使用に限り、著作権法上認められています。ただし代行業者等の第三者による電子データ化及び電子書籍化は、いかなる場合も認められておりません。

落丁本・乱丁本は業務部へご連絡くだされば、お取替えいたします。
© Keishosai Ogasawara 2011 Printed in Japan ISBN 978-4-334-03651-5

例７

（点訳例はｐ22）

男も女も更年期から始めよう

野末悦子／メノポーズを考える会・安井禮子
関谷透／横山博美／村瀬幸浩

2001年10月10日	発行
発行者	池田 徹
発行所	ゆうエージェンシー
発売元	学陽書房
	東京都千代田区飯田橋1−9−3
	営業部 TEL:03−3261−1111 FAX:03−5211−3300
	編集部 TEL:03−3261−1112
	振替 00170−4−84240
印刷所	東京印書館

乱丁・落丁は送料小社負担にてお取替えいたします。定価はカバーに表示してあります。

ISBN 4-313-86112-2 C2000

ⓒ2001、 Printed in Japan

例８

（点訳例はｐ24）

巻き込む力

すべての人の尊厳が守られる世界に向けて

2011年1月25日　初版第1刷発行

著　者　土井香苗
発行者　塩谷雅彦
発行所　株式会社 小学館
〒101-8001 東京都千代田区一ツ橋 2-3-1
電話　（編集）03-3230-5440（販売）03-5281-3555
印刷・製本　共同印刷株式会社

宣伝／山崎俊一
販売／奥村浩一
制作企画／坂野弘明
資材／藤本雄大
制作／遠山礼子
校正／小学館クリエイティブ
編集／岩間朗子

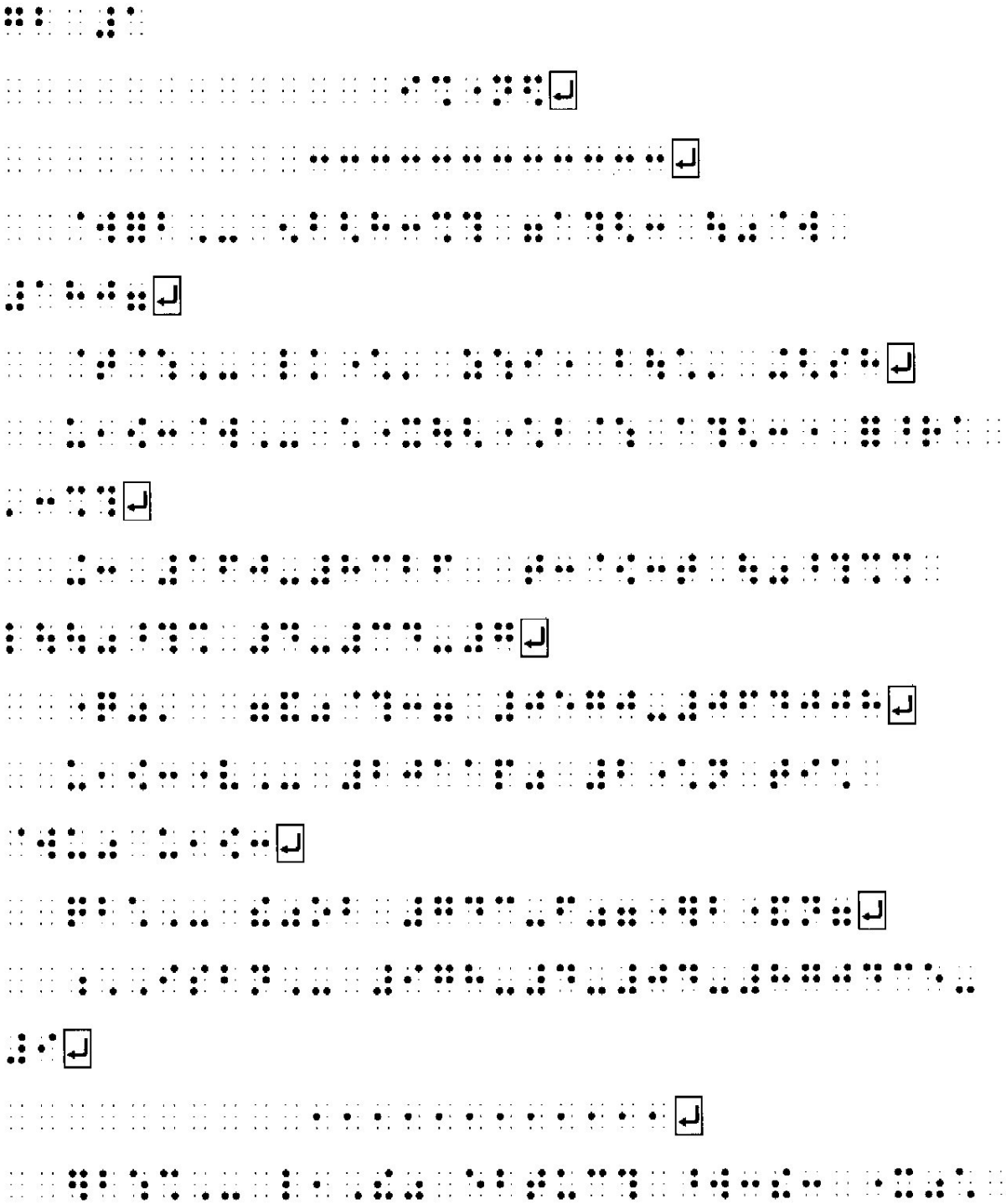
造本には十分注意しておりますが、印刷、製本など製造上の不備がございましたら
「制作局コールセンター」（フリーダイヤル 0120-336-340）にご連絡ください。
（電話受付は土・日・祝日を除く 9:30〜17:30 になります）

Ⓡ〈日本複写権センター委託出版物〉
本書を無断で複写（コピー）することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。
本書をコピーされる場合は、事前に日本複写権センター（JRRC）の許諾を受けてください。
JRRC（http://www.jrrc.or.jp　e-mail:info@jrrc.or.jp　電話 03-3401-2382）

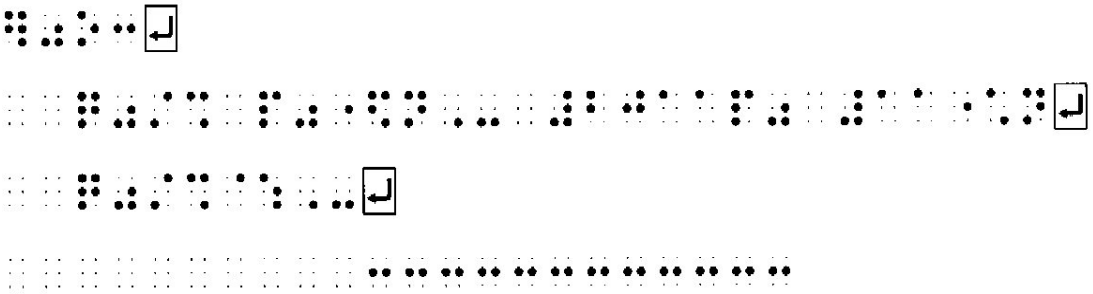
© Kanae Doi 2011 Printed in Japan

ISBN 978-4-09-388165-4

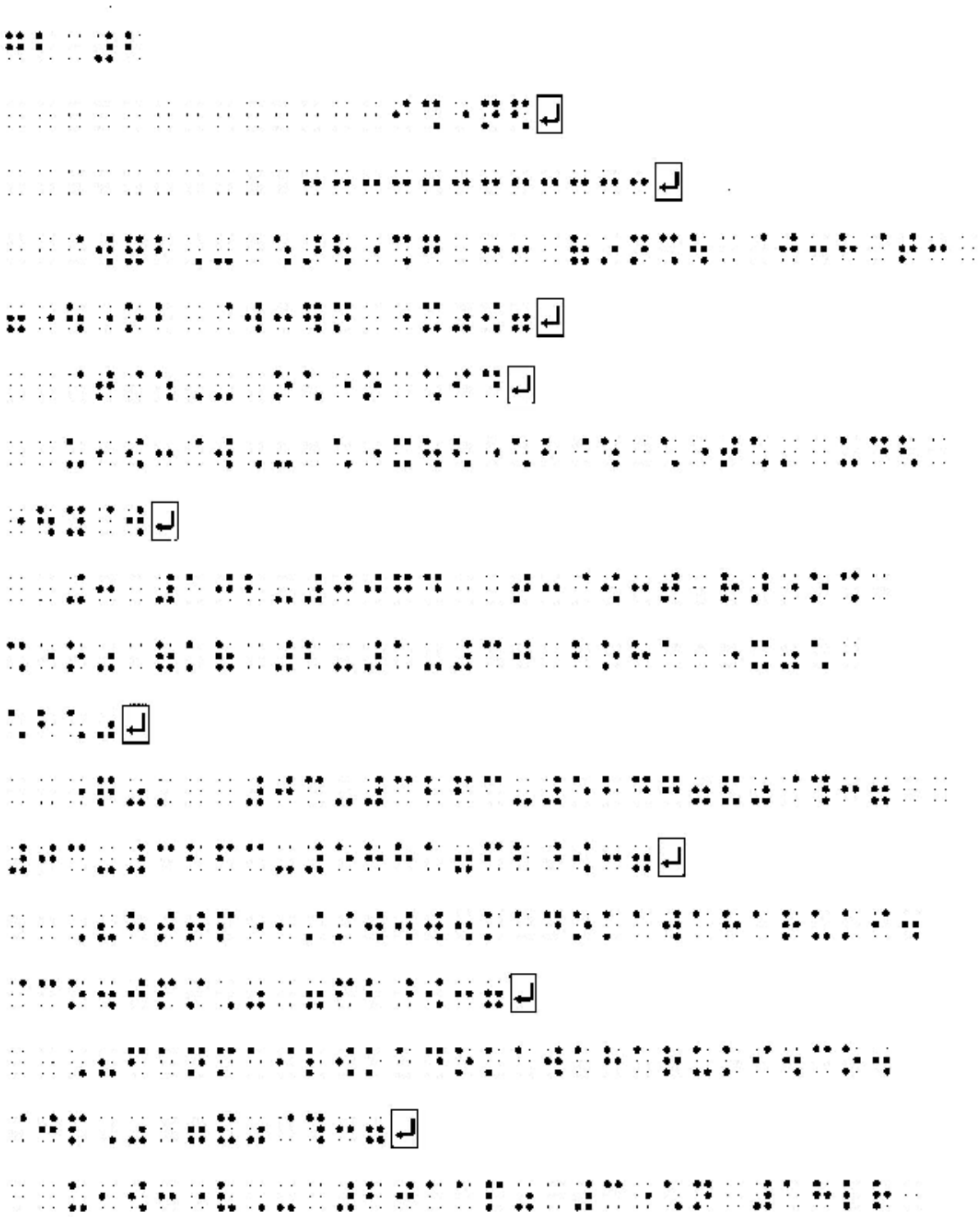
例１　『ウィキリークス』



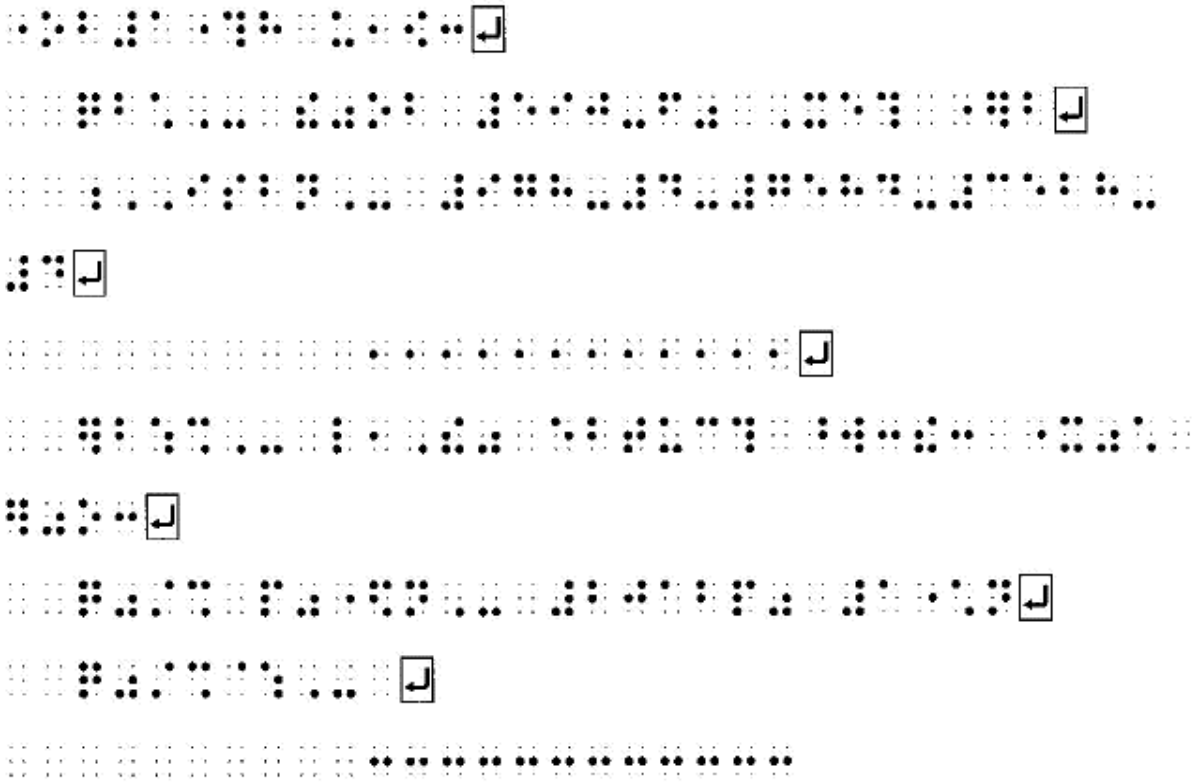
例１　『ウィキリークス』



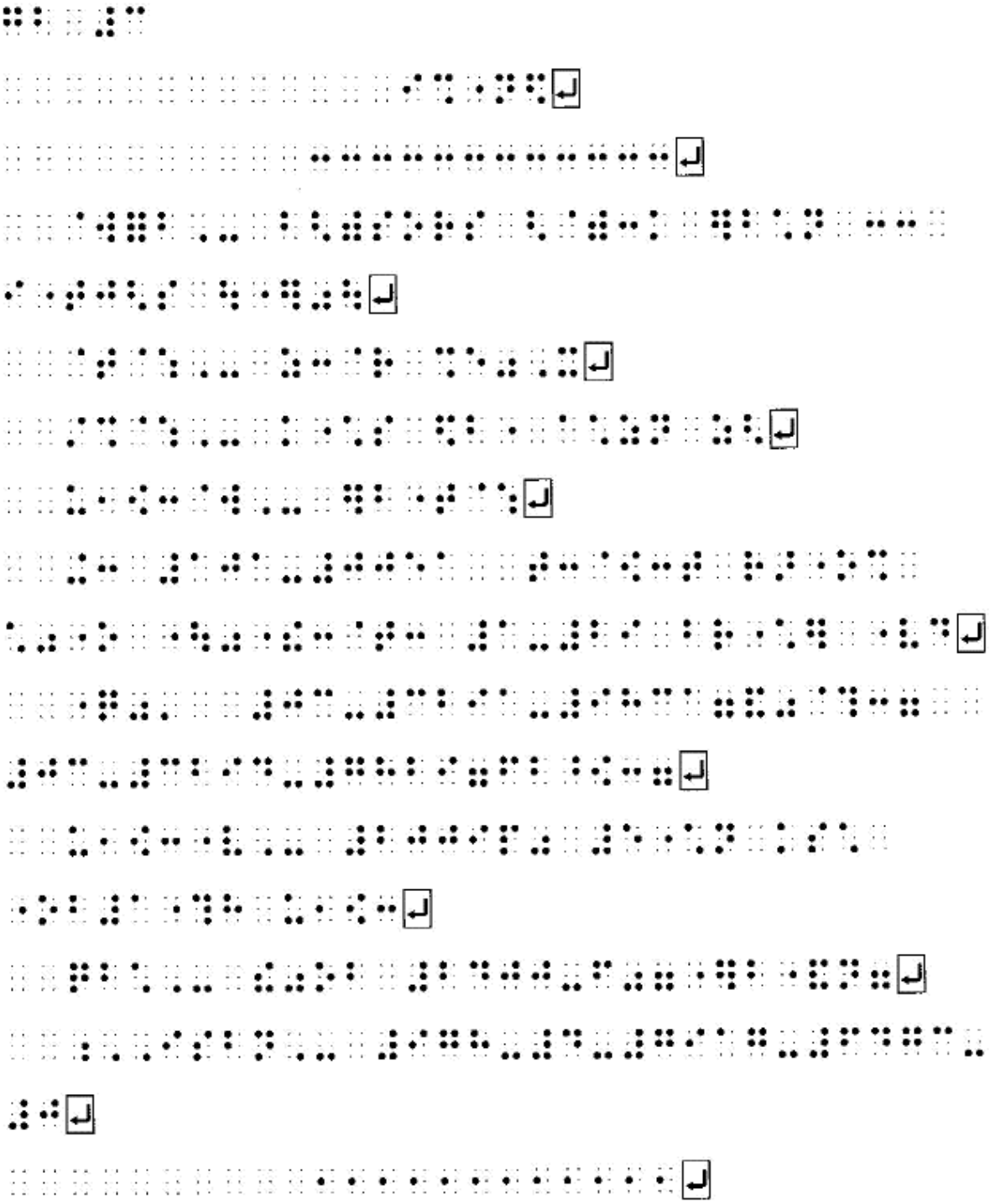
例２　『小夜しぐれ』



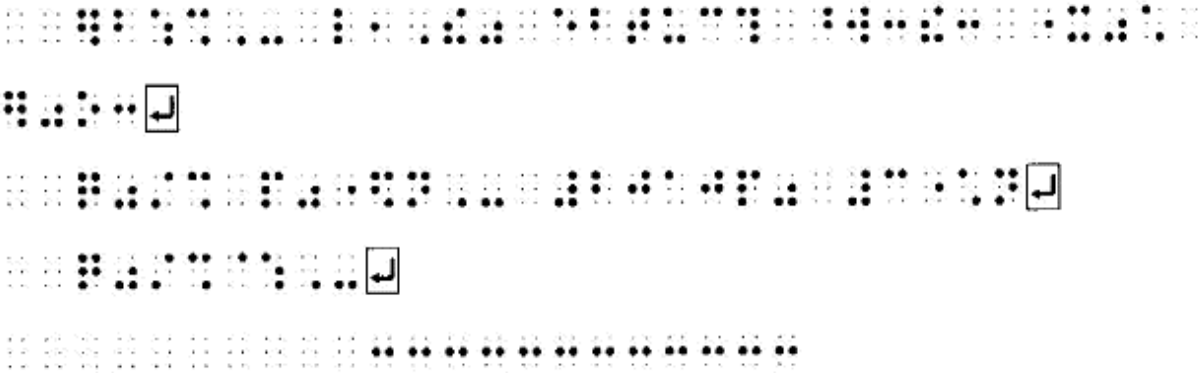
例２　『小夜しぐれ』



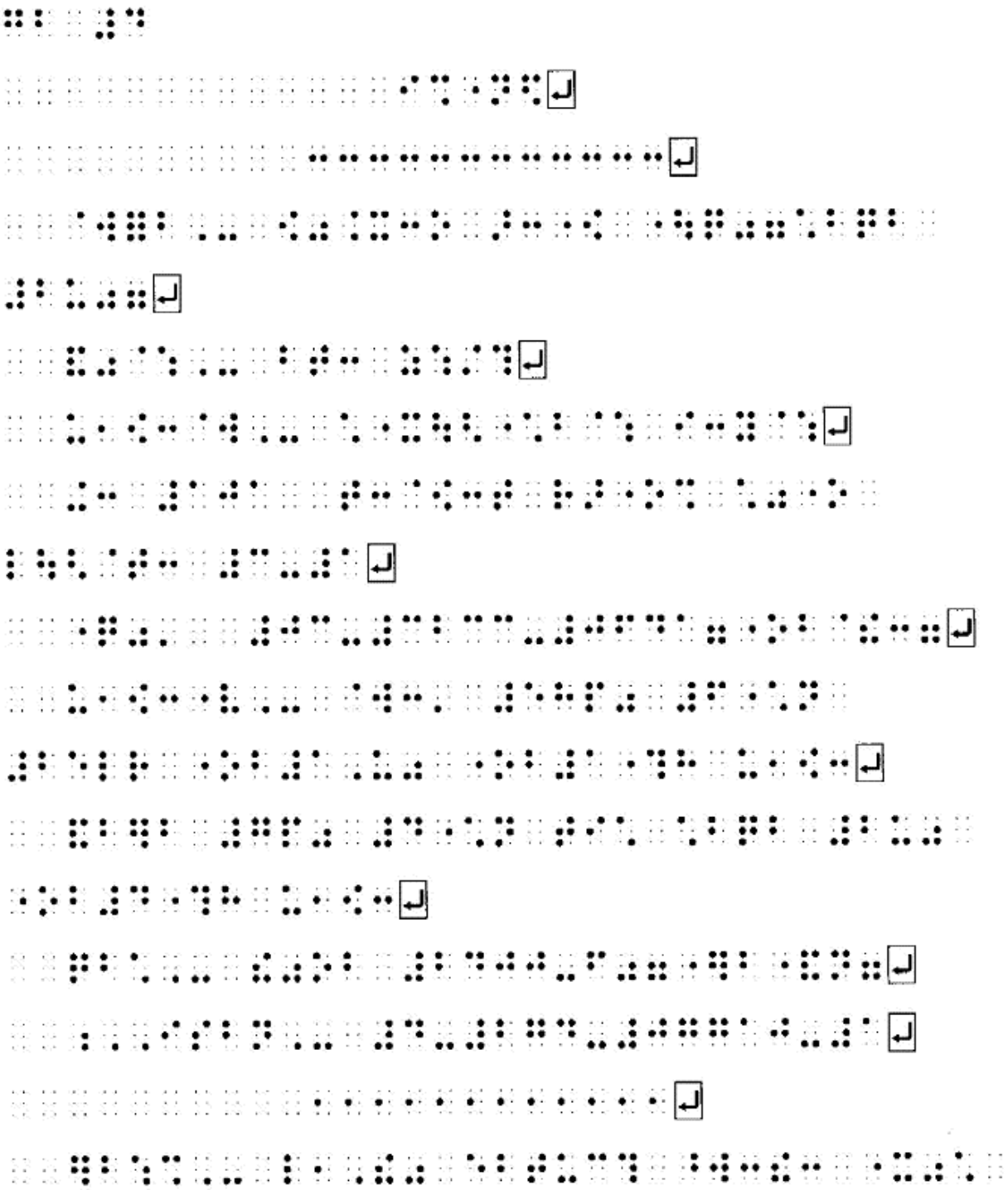
例３　『生きものたちの奇妙な生活』



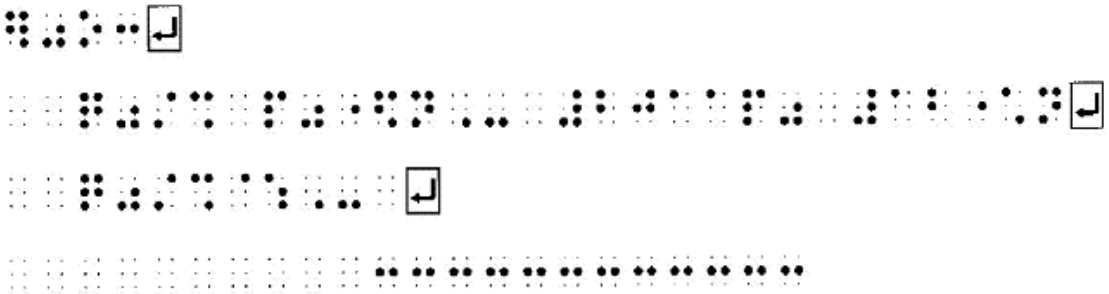
例３　『生きものたちの奇妙な生活』



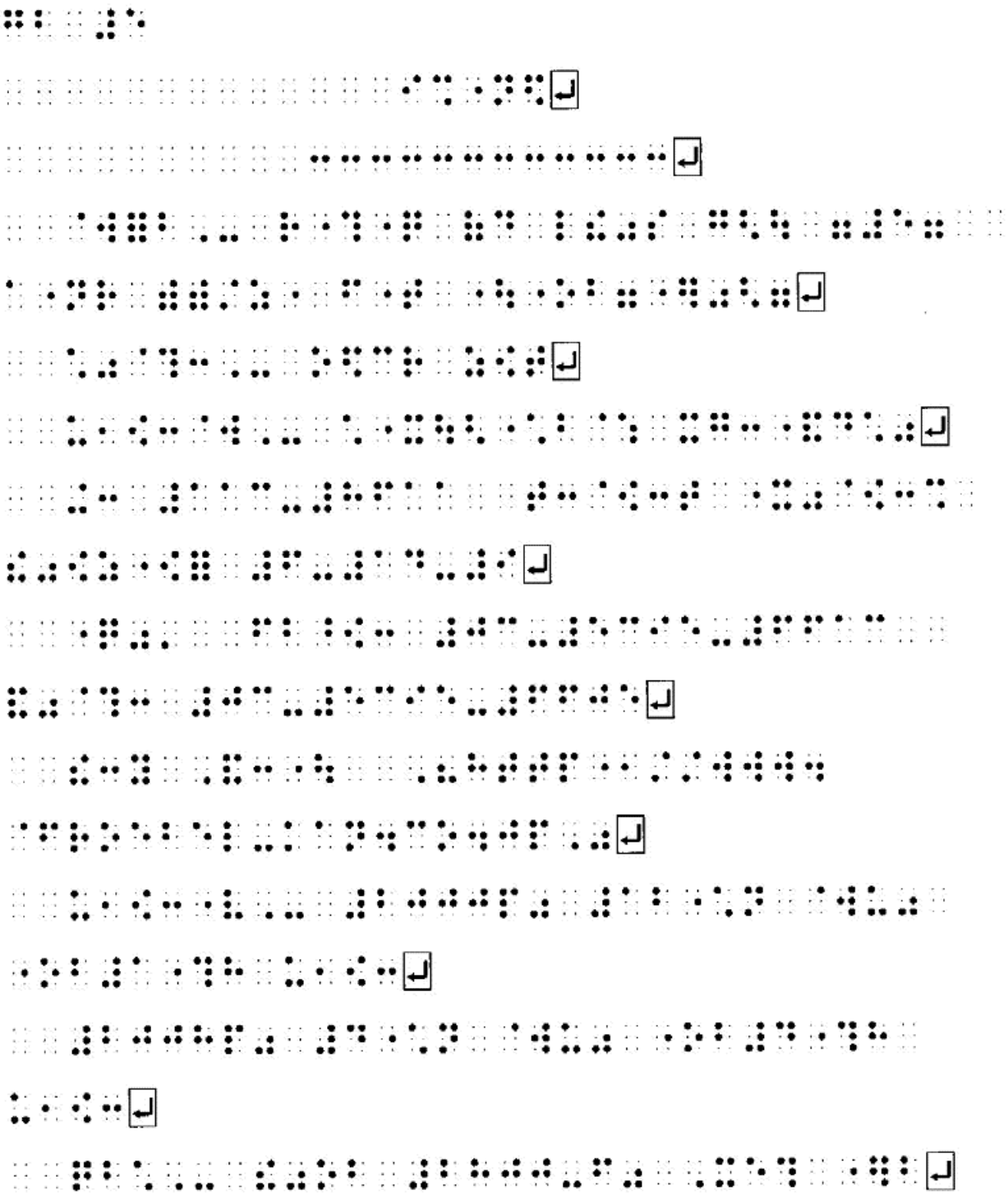
例４　『コンピュータ用語事典』



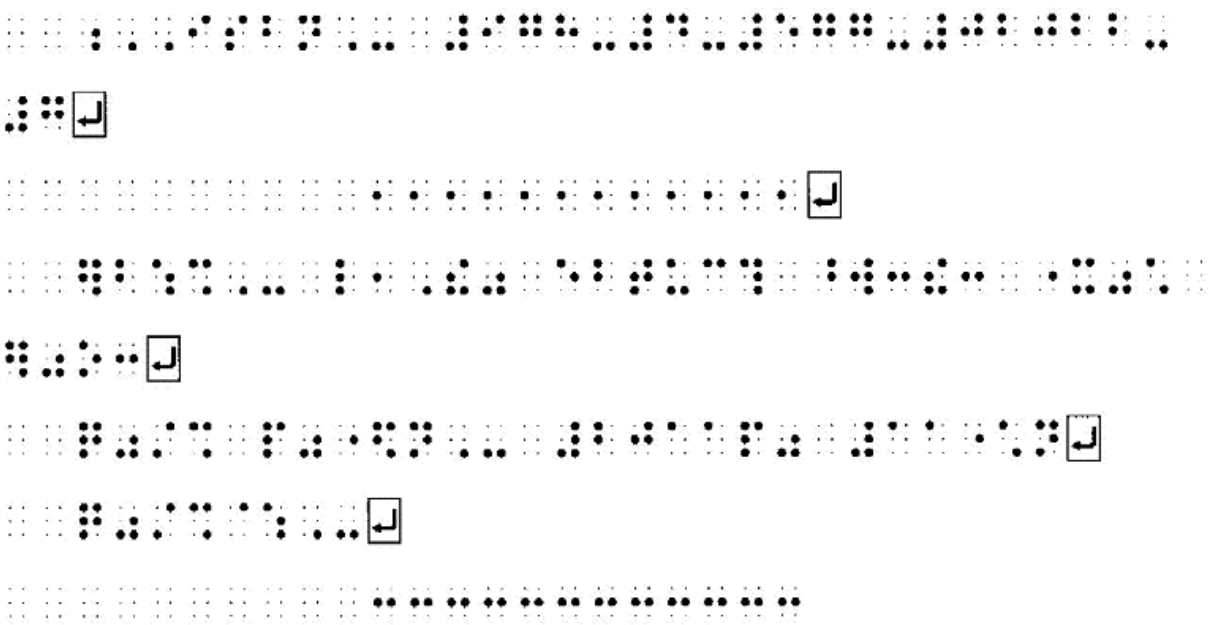
例４　『コンピュータ用語事典』



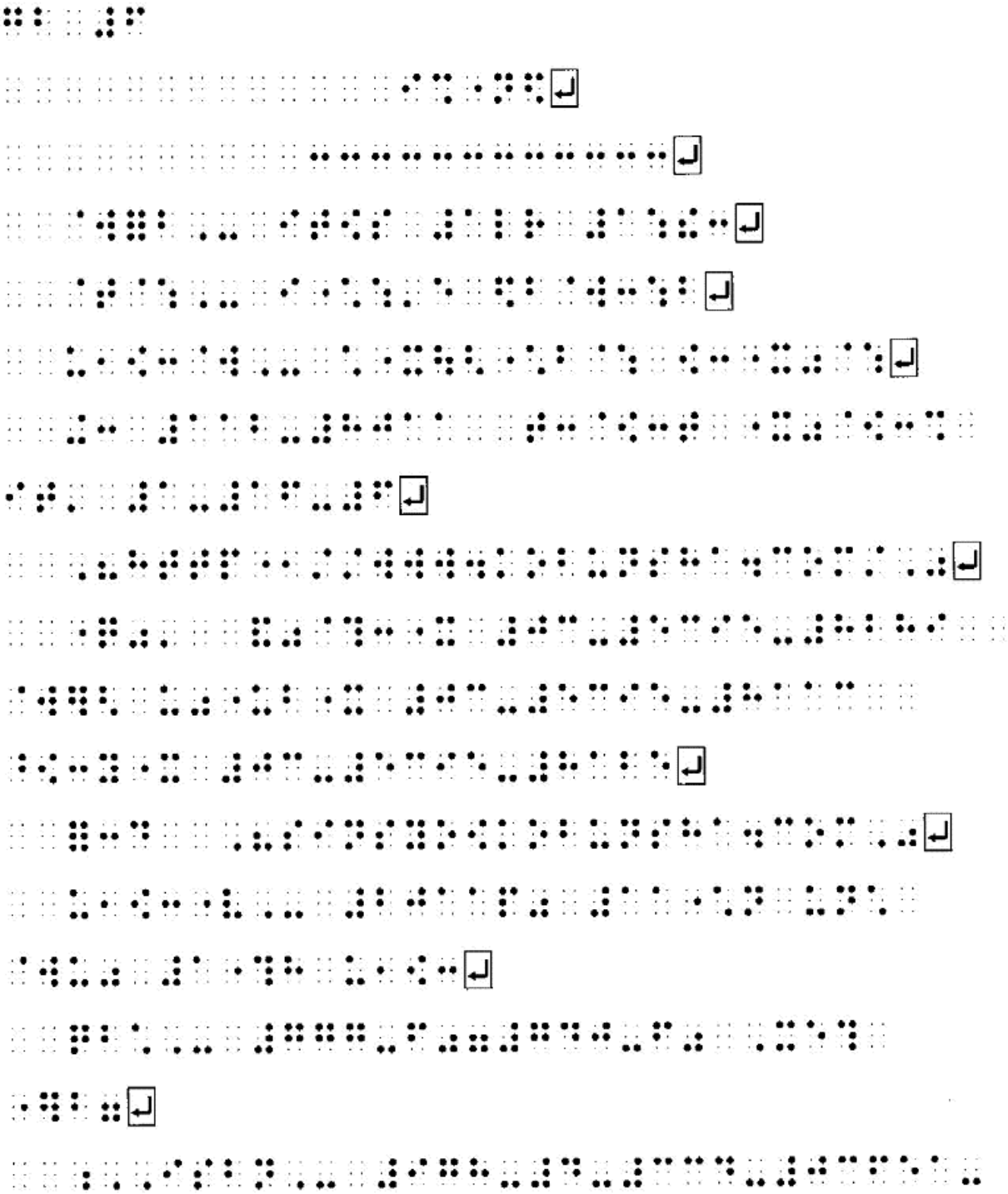
例５　『地図でみる日本の歴史』



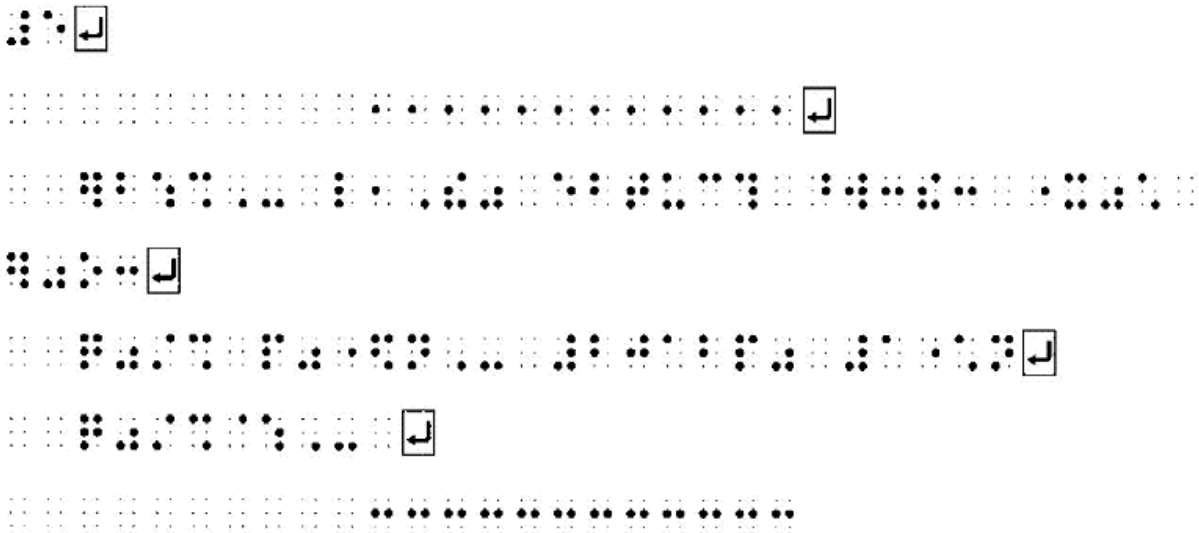
例５　『地図でみる日本の歴史』



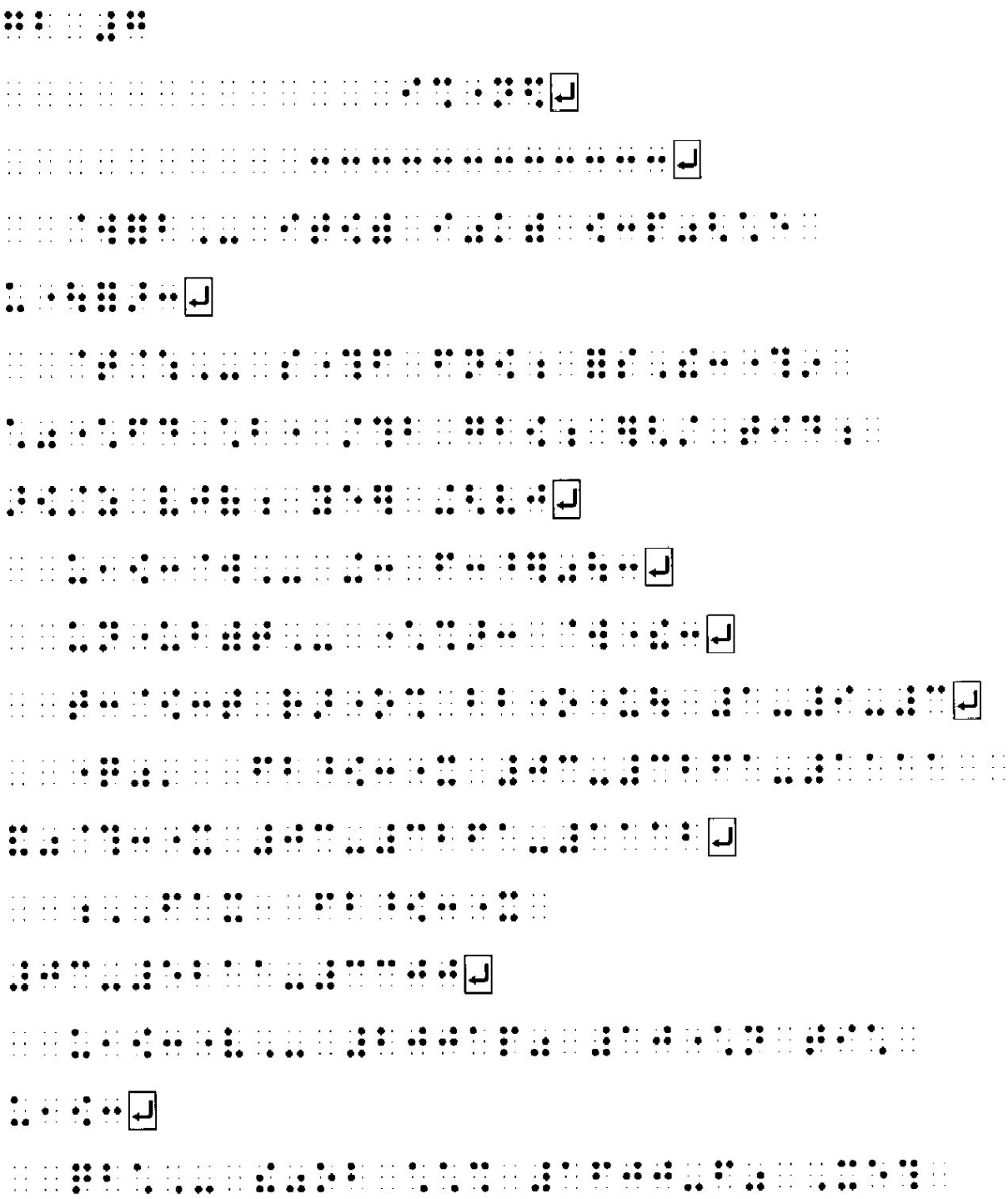
例６　『男の一日一作法』



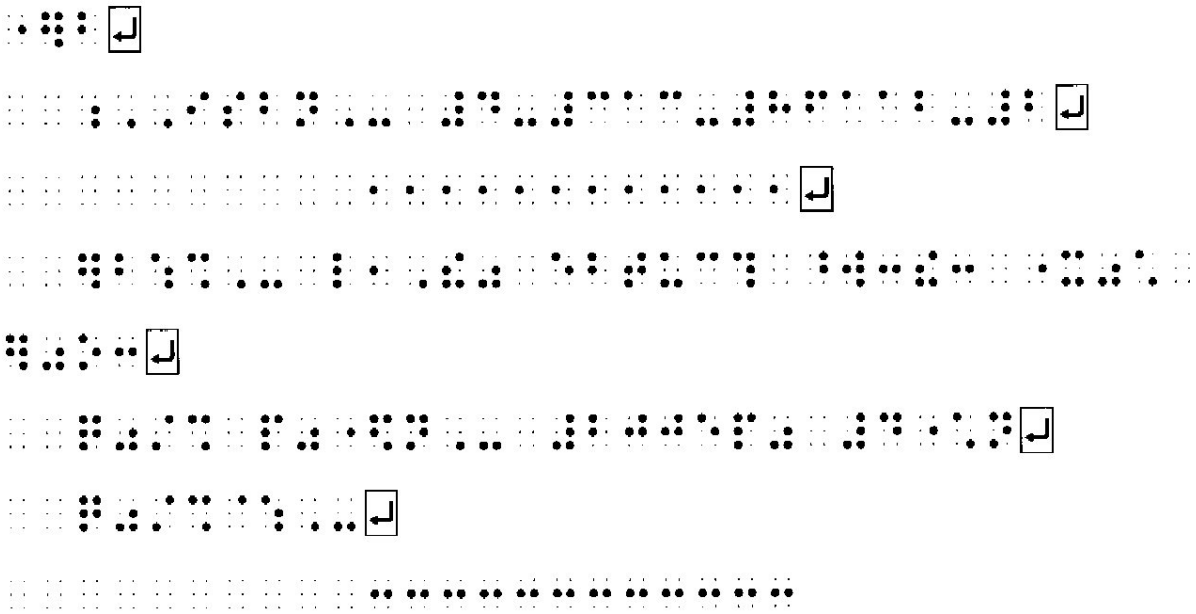
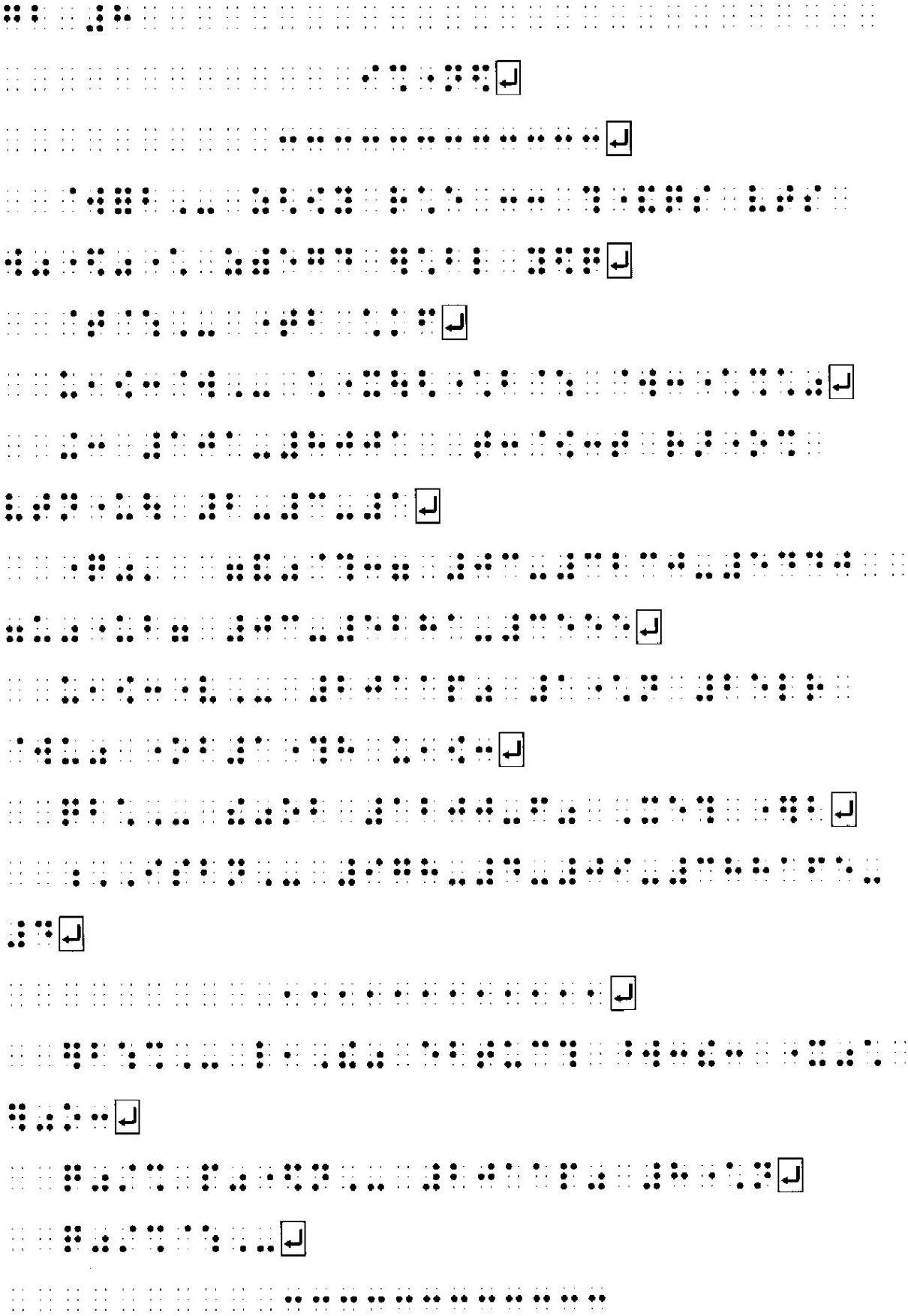
例６　『男の一日一作法』



例７　『男も女も更年期から始めよう』.BES



例７　『男も女も更年期から始めよう』



例８　『巻き込む力』